

# 5. 社会贡献

---

Contribution



## 【1】 公開講座・講演会等の実施

本学の有する専門的かつ幅広い知的財産を活用して、社会の多様なニーズに対応した教育機会の提供を推進し、社会人の学び直しや地域の分野別リーダー的人材の育成等、地域課題をテーマとした公開講座を実施した。主な実施事業は以下のとおり。

### ■ 平成27年度弘前大学公開講座・講演会の主な実施事業一覧

事業名	実施場所	対象
公開講座「メンタルヘルス」	弘前市	一般市民
「健康・医療講演会」 ～大腸がんについて～	七戸町	一般市民
公開講座「リングゴを科学する」	平川市	一般市民
むつ市連続講演会 「少子高齢化社会がもたらす地域課題」	むつ市	一般市民
むつサテライトキャンパス 「地域医療の進歩とその基礎」	むつ市	一般市民
つがる市連続講演会「地域課題・生活課題に取り 組む人材育成を図る」	つがる市	一般市民
三沢市「文化ボランティアの育成をめざして」	三沢市	一般市民
弘前大学八戸サテライト短命県返上「健康講座」	八戸市	青森県南地域の住民
弘前大学八戸サテライト市民のための 「やさしい介護講座」	八戸市	青森県南地域の住民
弘前大学八戸サテライト市民のための「ナチュラル・イノベーション講座」	八戸市	青森県南地域の住民
2015年度 弘前大学シニアサマーカレッジ	弘前市, 西目屋村, 五所川原市	青森県内及び全国の50歳以上のシニアの方
世界自然遺産白神山地の保全と活用	弘前市	世界自然遺産の保全と利活用について考えたい人
佐井村子育てサークル「ぼぶり」の活動支援 「ちびっ子海賊の佐井村探検」	佐井村	幼児・小学生と保護者、子どもや育児に関心のある一般市民
託児付の育児支援連続講座 「これからの家計のあり方」	弘前市	育児中の保護者
中泊町子育て支援講演会 「アロマでこころすっきり体験」	中泊町	育児中の保護者、子育てに関心のある一般市民
七戸町生涯学習講座 「『福祉のまち』づくりをめざして」	七戸町	民生委員、福祉によるまちづくりに関心がある人
産み育てたいまちひろさき"仮想家族会議"	弘前市	大学生

事業名	実施場所	対象
子どもの育ちを考えるゼミナール	弘前市	子どもに携わる職業(教員・保育者・児童厚生員等)、実践者(子ども会、NPO等)、子どもの育ち・学校外教育に関心のある方
弘前市公民館関係職員研修会	弘前市	公民館職員、生涯学習担当職員、社会教育職員
社会教育関係職員ゼミナールM&D	弘前市	社会教育・公民館等に勤務する職員
弘前市「学区まなびい」講座運営担当者研修会	弘前市	「学区まなびい」の講座運営担当者
地区公民館と弘前大学の連携事業「これからの地域農業を考える」	弘前市	農業者、農業に関心のある方
地域おこし協力隊研修会	弘前市	本学の教員・学生、自治体職員、地域おこし協力隊(近県も可)
藤崎町家庭教育相談員支援事業	藤崎町, 弘前市	家庭教育相談員、藤崎町教育委員会担当者
放課後の子どもの居場所づくりを考える研修会	弘前市	児童クラブやなかよし会等の学童保育、放課後子どもスタッフ他、希望する一般市民



地域おこし協力隊研修会(講演会)



地域おこし協力隊研修会(ワークショップ)



七戸町生涯学習講座



託児付育児支援講座



佐井村子育てサークル「ぼぷり」の活動支援(打合せ・イベント実施)

■ 青森市長による講演会「地方創生・人口減少克服に関する青森市の取組み」  
(平成27年4月13日 開催)

社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象とした青森県青森市長による講演会「地方創生・人口減少克服に関する青森市の取組み」を、平成27年4月13日(月)に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールで開催した。

この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、青森県東青地域の現状や同地域の将来ビジョンに関する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、弘前市や弘前商工会議所など、学内外合わせて56名が出席。講演者の鹿内博青森市長からは、「成長戦略本部」を設置した目的・組織体制についての説明があり、平成27年度の取組について、出生率改善対策における助成制度及び、移住・定住対策における4つの事業などが紹介された。

さらに、青森市の地域経済活性化に向けた本学との連携について、「ナマコの食ブランド化」への取組、青森市内にキャンパスがある「食料科学研究所」、「北日本新エネルギー研究所」との連携についても紹介があり、本学との一層の連携の強化、充実も進めていきたいとの抱負が述べられた。



■ 深浦町長による講演会「深浦町が目指す『地方創生』」 (平成27年5月19日 開催)

社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象とした青森県深浦町長による講演会「深浦町が目指す『地方創生』」を、平成27年5月19日(火)に弘前大学創立50周年記念会館岩木ホールで開催した。



この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、先に行われた青森市長による講演会等につき平成27年度第2回目として、日本海沿岸である県西地域に対する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、弘前市や弘前商工会議所など、学内外合わせて53名が出席。講演者の吉田満深浦町長からは、深浦町の現状について説明があり、過去に行われた「まちづくり住民アンケート結果」を元に、町産業振興・生活環境改善のための取組である7つの事業について、途中「深浦マグロ」についての動画を交えながら紹介された。

さらに、「第2次深浦町総合計画」についての取組として、定住促進プロジェクト、第一次産業と観光業の融合による地域振興プロジェクト及び、地域医療・地域包括ケア推進プロジェクトの3つのプロジェクトについても紹介があり、本学との一層の連携強化、充実を進めていきたいとの抱負が述べられた。



■ サンマモルワイナリー社長による講演会「私のは『地方再生』」（平成27年9月8日 開催）

社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象としたサンマモルワイナリー社長による講演会「私のは『地方再生』」を、平成27年9月8日(火)に弘前大学総合教育棟305講義室で開催した。

この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、先に行われた深浦町長による講演会等につき平成27年度第3回目として、地域を志向した事業の展開や、地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、弘前市職員など、学内外合わせて44名が出席。講演者の北村良久有限会社サンマモルワイナリー代表取締役からは、父親の経営するグループ企業で、開発途中で頓挫したゴルフ場を買い取りし、再開発に取り組んだ事業を紹介。また、青森県むつ市にある「サンマモルワイナリー」へ赴任し、青森県でのブドウ栽培の難しさや、新聞・テレビでの販売促進活動など、これまでに手掛けてきた企業再生やワイン生産の歩みを説明した。

さらに、本学食料科学研究所とスパークリングワインの共同研究を展開している取組や、ブドウの絞りかすなどを餌にして育てた羊の肉を「フルーツラム」として生産する構想があることを述べ、今後の展望を語るなど講演会は盛況のうちに終了した。



■ あおもり海山社長による講演会「～深浦町発信～ 産業創出による地域活性化に向けて」  
(平成27年10月13日 開催)

社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象としたあおもり海山社長による講演会「～深浦町発信～産業創出による地域活性化に向けて」を、平成27年10月13日(火)に弘前大学農学生命科学部401講義室で開催した。

この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、先に行われたサンマモルワイナリー社長による講演会等につき平成27年度第4回目として、地域を志向した事業の展開や、地方企業としての経営ノウハウに対する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、弘前市職員など、学内外合わせて63名が出席。講演者の堀内精二株式会社あおもり海山代表取締役からは、会社が置かれている青森県西津軽郡深浦町についての紹介から始まり、農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)を活用した6次産業化事業体としての出資認定をするなど会社を設立するまでの経緯、深浦町で水揚げされたクロマグロの加工・冷凍・販売を手掛けている事業内容や株式会社エー・ピー・カンパニーとのアライアンスによる経営力強化について説明があり、青森の地域資源の価値を高めた流通には冷蔵・冷凍施設や漁師の意識改革が必要であるとの意見を述べた。

さらに、平成28年3月に開業する北海道新幹線を活かすべく、観光客を深浦町に誘致する新商品の開発や観光商品の企画・販売及びクロマグロのみならず多種多様な魚種の加工販売を手掛け、地元の雇用につなげたいなど今後の展望を述べ、講演会は盛況のうちに終了した。



## ■ 函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」

(平成27年12月7日 開催)

社会連携や地域貢献にかかるFD・SD事業として、幹部級職員を主な対象とした函館市長による講演会「北海道新幹線開業を契機とした新たな青函交流」を、平成27年12月7日(月)に弘前大学50周年記念会館みちのくホールで開催した。

この講演会は、地域志向大学として県内全域での地域貢献活動を一層推進していくために、先に行われたあおもり海山社長による講演会等につき平成27年度第5回目として、平成28年3月に北海道新幹線が開業することを機に、更なる青函交流が行われている函館市を中心とした道南地域の将来ビジョンに関する見識を深めることを目的として開催された。

講演会には、佐藤学長をはじめ、役員、部局長、教育研究評議員など幹部職員らが、また、本学学生及び弘前市職員、弘前商工会議所職員など、学内外合わせて約300名が出席。講演者の工藤壽樹函館市長から、函館観光の状況及びインバウンドの現状や函館観光の取組と成果についての説明から始まり、平成12年度から台湾や中国へのトッププロモーションを開始した結果、平成24年度に台湾からの定期便開設で急激に外国人観光客数が伸びたこと、函館市公式観光サイトの11言語対応などで、外国人観光客は平成24年度に約18万人、平成26年度には約35万人に増加し、今年度は約45万人を超えるとの見通しであると述べた。また、インバウンドの今後の取組として、東南アジア諸国へのプロモーションやWi-Fi環境の整備、電子マネーやクレジットカードが利用できる施設などの充実が必要であるとの意見を述べた。

さらに、北海道新幹線開業に向けた取組などについての説明があり、15年後の札幌延伸を含め、観光における「東日本ゴールデンルート(東京－青函－札幌)」を構築するためには、東北全体と函館が連携したルート作りが必要であり、新幹線開業を機に、青森県、弘前市及び本学との連携を強化できればと今後の展望を述べ、講演会は大盛況のうちに終了した。





## 【2】系統的な地域志向公開講座の検討と実施

青森県は、世界自然遺産白神山地をはじめ、起伏に富んだ豊かな自然環境に恵まれているが、その活用は十分とはいえない。弘前大学生涯学習教育研究センターは、世界自然遺産「白神山地」の保全に配慮しつつ活用をすすめる専門人財の育成講座を平成28年10月より開講する。それに先立ち、育成講座の一部を構成する授業科目「生物学の基礎IIC」と連動した公開講座「世界自然遺産白神山地の保全と活用」を試行し、受講生の関心の在処を探るアンケート調査を実施した。

公開講座は平成28年2月4日(木)に弘前大学総合教育棟406講義室において開催された。「世界自然遺産のこれから：希少価値を求めるか、馴染みやすさで広く知ってもらおうかの悩みどころ」という題で、世界自然保護基金WWFジャパン自然保護室主席リーダー・京都大学野生動物研究センター特任教授の岡安直比氏が講師を務めた。

公開講座では、すでに1,000件を超える世界遺産が登録されており、もはや世界遺産であるというだけでは、観光資源として魅力的であるとは言いがたいことが示された。また、世界自然遺産については、「パトロール」「エコツーリズム」「モニタリング調査」の3点が重要であることが指摘され、世界各地の世界自然遺産の取組が紹介された。とくに非保護区において生物多様性保全と地域経済の持続的発展を両立させる事例の報告は、今後、本学が実施する専門人財育成講座のカリキュラムを開発する上で有意義であった。

本公開講座を受講した95名を対象に、世界自然遺産の保護と活用について、具体的に何に関心を持っているかアンケート調査を行った。アンケートを分析した結果、世界自然遺産の保護保全に対する関心が高いこと、また、そうした人々は、次世代への継承への関心が高い一方、観光化・ブランド化への関心はやや低いことなどが明らかとなった。これらの結果をもとに、カリキュラムの開発を加速させる。



公開講座(世界自然遺産白神山地の保全と活用)

### 【3】グローバル人材育成事業の実施

グローバルな視点で地域の課題を解決できる「グローバル人材」を育成するため、本学と弘前市、弘前商工会議所の3者で設立した「学都ひろさき未来基金」による3事業を展開した。

#### 1. 学生市民等協働プログラム

指導教員のもと、学生と市民・企業人が一体となって海外研修、海外事情調査を行った。平成27年度のプログラムは以下のとおり。

#### ■ 平成27年度 学生市民等協働プログラム 一覧

区分	No.	部局	事業名	訪問国・地域	派遣人数	
一般型	1	人文学部	県産りんご輸出拡大のテスト販売事業	中国・台湾	教員1、学生7、一般2	10
一般型	2	教育学部	漢陽大学(ソウル市)との連携による旧日本人居住地区の街なみ調査	大韓民国	教員1、学生4、一般1	6
一般型	3	保健学研究科	ニュージーランドにおける食と運動に着目した健康関連分野の調査	ニュージーランド	教員1、学生5、一般1	7
一般型	4	理工学研究科	地熱発電大国インドネシアにおける地熱開発状況・地熱フィールド実体験プログラム	インドネシア	教員2、学生2、一般2	6
一般型	5	農学生命科学部	弘大生による青森県産りんご加工品の台湾向けプロモーション推進事業	台湾	教員2、学生5、一般2	9
一般型	6	農学生命科学部	台湾視察を踏まえた弘前市における農村交流観光振興方策の検討	台湾	教員1、学生3、一般3	7
一般型	7	農学生命科学部	生産者と学生によるベトナムの農村視察及び市場調査	ベトナム	教員2、学生6、一般2	10
学部横断型	1	人文学部 教育学部	スペイン語圏世界との手工芸・観光・言語学習を通じた文化振興と産業育成～メキシコ国オアハカ市での研修を通じて～	メキシコ	教員2、学生4、一般1	7
学部横断型	2	医学研究科 理工学研究科	教育カリキュラム導入によるグローバル医用システム開発人材育成協働事業	アメリカ	教員3、学生6、一般1	10

計 72

そのうちの一つ「教育カリキュラム導入によるグローバル医用システム開発人材育成協働事業」では、学生と地元企業の技術者によるチームが結成され、アメリカのミネソタ大学を訪問した。

医用システム開発者と医用システム使用者という異なる視点から、国際的な医用システム開発の現状を体験し、チューター的存在である企業技術者との意見交流を通して、学生達は自身の技術者としての未来像を具体化した。同行した地元企業の技術者にとっては、国際的に医用システム事業を牽引している米国の教育研究システム、事業化、産学連携についての見聞を広め、地域企業の医用システム分野の新事業開発に役立てることとなった。



ブレインストーミングの様子



プロトタイプ作成に熱中する学生達

## 2. 学生海外PBLプログラム

本学学生が留学先大学学生と連携して、共通課題に関するショートPBLを学生自らが企画・実施した。平成27年度のプログラムは以下のとおり。

### ■ 平成27年度 学生海外PBLプログラム 一覧

No.	所属	事業名	訪問国	派遣学生
1	人文学部	「地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築」を題材とした学生海外PBLプログラム	大韓民国	8
2	教育学部	メイン大学異文化コミュニケーション集中講座	アメリカ合衆国	16
3	農学生命科学部	東アジアフードチェーンの広域化・高度化に対応する人材育成プログラム	中華人民共和国	6
4	教育学部	ベトナム語学研修と伝統工芸村で地域活性化について学ぶ	ベトナム社会主義共和国	5
5	保健学研究科	ストックホルム大学放射線科学集中講座	スウェーデン王国	5

計 40



そのうち、「『地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築』を題材とした学生海外PBLプログラム」事業では、地域を担う人材育成と地域活性化のための地方大学の役割を模索するため、社会経済環境が類似している韓国の地方大学がどのような取組(自治体や企業との協働など)を行っているのかを調査研究し、具体的に実践できる取組について提案した。また、地域活性化のための地方大学の役割をテーマとしたセミナーを、本学と大学間協定を締結している慶北大学校の学生と共同で実施するなど、本学学生のグローバルマインドの涵養に繋がった。



### 3. グローカル人材育成推進事業

平成28年3月10日(木)、弘前市長及び関係者、弘前商工会議所及び企業関係者(寄附者)を招待し、「学生市民等協働プログラム」と「学生海外PBLプログラム」の成果発表会を行った。

参加学生による取組成果の報告、また、海外研修等で得た成果をもとに、地域活性化につながる情報やアイデアを弘前市へ提言するなど、地域との連携強化、そして自治体、市民、企業人と大学との知識共有及び地域に必要なグローバル人材の育成事業に大きく寄与した。

弘前大学 グローカル人材育成事業  
成果発表会

弘前市及び市民・企業様からご支援をいただき、弘前大学の学生が海外研修をしております。このたびは海外研修を行ったクルーによる報告会を行います。ぜひご参加ください!

入場無料

平成28年3月10日(木) 13:30~17:00

第1部: 弘前大学グローバル人材育成事業成果発表会  
中三弘前店8階ホール「スペースアストロ」

第2部: 寄附者との茶話会 土手町コミュニティパークA館  
コミュニケーションプラザ1階「多目的ホール」

【お問い合わせ】  
弘前大学総務部広報・国際課  
TEL: 0172-39-3114  
E-mail: jm3114@hirosaki-u.ac.jp

主催: 国立大学法人弘前大学  
共催: 弘前市、弘前商工会議所